

■市原多代女 俳人。夫死後の家業と育児による心労を脱すべく、俳句を始め一流にまでなり、多くの俳友と交流した。
いちほらたよじよ
雨月物語刊・1776＝ 陸奥国須賀川の豪商市原寿綱の娘に生まれる。

蝦夷初調査・1785＝9歳：
田沼意次失脚1786＝10歳：

長兄綱綱は大庄屋で酒造業を営むかわら酒屋蔵人の号で狂歌を詠むというような家に育ち、

アスマン来日・1792＝16歳：縮緬問屋を営む分家の養女となり、
松平定信引退1793＝17歳：
ワシントン正月・1794＝18歳：会津若松から婿松崎常蔵を迎えて、家業を継ぎ、

三子を儲けるが、

アメリカ船来航始1803＝27歳：

バナー報復・1806＝30歳：夫が病没、

家業と子供の教育に心労するうち健康を害し、長兄の勧めで、近所の俳人_石井雨考から俳句を学び、

コロブニン拿捕 1811＝35歳：雨考のはからいで_鈴木道彦に入門。

高田屋拿捕・1812＝36歳：

_以後、家業の仕事しながら、俳句の勉強を熱心に行い、

黒住教・・・1814＝38歳：この年、雨考が刊行した「青蔭集」に序を寄せる。

・・・1815＝39歳：乙二が一具とともに来訪。

伊能測量終・1816＝40歳：_雨考と江戸行きを計画したが、果たせず、

杉田玄白没・1817＝41歳：*諸家に請い受けた句に'霞みけり我朝ころろ夕ころろ'など自身の句を加えて「(浅香)あさか市集」(雨考校・乙二序・道彦跋)を刊行、

水野忠成老中1818＝42歳：_乙二から「晴霞」の号を受けて(晴霞庵)を建立、一枚摺を配る'菊植える迄をことしの出来ごころ'。

群書類従完結1819＝43歳：_道彦が死去したため、乙二に師事する。

伊能図完成・1821＝45歳：

この間、長男が本家を、次男が分家を継ぎ、それぞれ蝶二、桃丘と号する俳人ともなり、

シボク来日・1823＝47歳：*江戸へ出て、一具の許に止宿、多くの俳友と交わり、「(菅笠)すがゞき日記」を著して、帰郷。

_俳名が上がり、俳書の多くに入集するなか、松尾芭蕉を尊敬し、その伝統を残すべく、その顕彰に努めながら、弟子を育てて地元の俳句の発展に一生を捧げ、

富籤流行・・・1830＝54歳：

大塩平八郎乱1837＝61歳：

蚕社の獄・・・1839＝63歳：

阿部正弘首座1845＝69歳：

・・・1848＝72歳：

_「晴霞庵」に多くの俳友を迎え余生を楽しみ、

尊徳報徳論・1851＝75歳：この年、大坂の鼎左及び江戸の一具が多代女の句を刻んだ"芭蕉翁奥の細道松島の文"の碑を建立。

ペリー来航・1853＝77歳：十念寺に芭蕉の句碑'風流のはじめや奥の田植え唄'を建立。*「辞世集」と自撰句集「晴霞句集」を刊行、

安政大地震・1855＝79歳：長男が病没。八〇を賀して田植唄の句碑を建立、一枚摺を配る。'我国や今にむかしの田うえ唄'。

蕃書調所・・・1857＝81歳：

8月18日政変 1863＝87歳：米寿を祝い一枚摺を配る。'おもしろや起て出たれば米の春'。

薩摩藩士密航1865＝89歳：*4千以上の俳句を残して、没した。

{鑑賞・女性俳句の世界}第1巻、インターネット、